

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300525		
法人名	(有)介護生活研究所		
事業所名	グループホームすずらん		
所在地	熊本県人吉市鬼木町1423-1		
自己評価作成日	平成25年2月23日	評価結果市町村受理日	平成25年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

信頼関係を「ゆっくりいっしょに」築いていきます。ご本人やご家族との信頼関係を築く事が大切で、その信頼関係の中で創りだされる「ゆっくりであること」「いっしょであること」を念頭に自立した生活ができるように介護支援を行なっていきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成25年3月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな住宅地の中にあるホームは、開設時から地域に目を向けた基盤作りにより、近隣住民の緊急搬送時に駆けつける等住民にとっても心強い事業所として存在が浸透してきている。昨年度の外部評価結果の課題を目標としてこの1年真摯に取り組み、職員は入居者一人ひとりの思いに寄り添い、採光十分な明るい環境の中、歌好きの方からは「今日はなかなか」と歌番組を心待ちにしたり、職員との談笑等ゆっくりとした時を過ごしており、「ゆっくり いっしょに」とする理念をまさに実践している。代表や管理者を中心とする組織運営が確立し、チームとしての風通しの良さは申し送りや毎月のミーティングの中に表れている。毎月の家族への情報発信は家族との信頼関係構築となり、運営推進会議も地域の問題解決の場として相乗効果となり、地域になくはならない事業所としての更なる展開に大いに期待されるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時基本理念を伝え施設方針を共有している。玄関にも掲示しご家族、外部者にも随時確認して頂けるようにしている。時間に追われる事なく生活して頂けるようにしている	代表の経験から“ゆっくり いっしょに”を理念として掲げ、玄関や共有空間への掲示により職員及び訪問する家族等への啓発としている。昨年度の評価課題を目標として、親しみ仲にも礼節を持ってこの1年真摯にケアにまい進している。職員には入職時に説明する他、毎月のミーティング時に話し合い、共有化に努め、入居者を中心に置き、ゆっくりとした時の流れの中に、楽しい時間も作りながら真摯にケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩など外出の機会を多く取り入れ、行事ごと等の参加、案内を行ない顔なじみの関係作りを目指している	入居者と職員との散歩によりグループホームとして近隣に周知され、区に加入し、かわら版の回覧や清掃活動、花見や食事会に参加する等地域の一員として活動している。また、保育園児や子どもみこしの訪問の他、子ども会の会長を通じた餅つきの案内による子どもたちとの交流が今では土・日曜日に遊びに訪問する等地域の中での生活は充実してきている。	近隣住民の緊急搬送時に駆けつける等住民にとっても心強い事業所である。かわら版に寄せて更に周知に努めることや介護教室等を通じて地域とのつながりを深めたいという構想もあり、職員の持つケア力を発揮し、地域になくてはならない事業所としての更なる展開に大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の高齢者の散歩の休憩所などに利用して頂けるよう声掛けを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者、ご家族、町内会長、民生委員、近隣住民、市役所から参加して頂き現状報告を行ない、意見を頂き、運営推進会議後、報告を行ない情報共有を行なっている	定期的に開催する運営推進会議は、入居者状況や活動報告と予定、リスクマネジメント等を報告し、ホームの課題のみならず、地域の問題点を話し合う機会として生かされていることはカーブミラーが設置されたことや、ホーム周辺の道路問題への苦言に安全運転の徹底に努めていることに表出している。議事録から透明性のある運営であることが窺われ、視覚(写真)による現状報告はケア発信となり、地域委員もこの地にグループホームが開設されたことに期待を持って積極的に参加されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時、現状報告を行なっている。また、介護保険の更新時の書類申請など行けるご利用者の方は一緒に市役所に行くようにしている	運営推進会議議事録提出や介護保険認定更新に行政に出向き情報を発信したり、キャラバンメイト研修に参加している。また、不明な点は行政に出向きアドバイスを受けたり、運営推進会議時に行政が開催する研修や行事等情報が発信されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は時に施錠は行なっておらず、徘徊などあれば必ず付き添い対応を行なっている	ホーム内外の研修に参加しており、身体拘束の弊害は全員が正しく認識している。ホームは居室を含め吐き出し窓であり、一緒に過ごす中で一人ひとりの思いを把握し、徘徊や外出傾向に抑制することなく原因を追究し、料理に取組んでもらったり、散歩と一緒に出かける等自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行ない、防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設者が成年後見人研修を受講しており、本年度の職員研修で行った		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明を行ない、署名、捺印を頂いている。また、質問等あればその都度返答している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に連絡を行ない、現状報告を行なっている。問題があればすぐに対応を行なっている。年1回家族会を開き参加出来るご家族には参加して頂いている。また、面会時に要望あればお伺いしている	入居者とは傾聴や寄添いのケア、関わりの中で要望等その都度把握し、家族に会いたいという思いを家族に代弁し定期的な訪問に繋げる等ケアサービスに反映させている。玄関先の意見箱や、家族との関係を継続するため毎月活動の写真や月間報告書により情報を発信し、家族の来訪時に要望や不満等を聞き取りしている。家族からは満足や信頼と言う声は上がっているが、苦情等は全くない現状である。また、運営推進会議を介した地域からの苦言に適切に対応している。	家族会は行事(そうめん流し等)として盛会に開催されており、交流の機会として活かされている。家族会の中に家族同士の話し合いの場を検討し、家族会代表を通してホームへの要望等を出してもらおう等、更なるホーム運営に家族の意見や提案等を聴集されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ミーティングを行ない話し合いを行なっている	管理者は日々職員とのコミュニケーションを図り、職員に声をかけ意見を聞いたり相談に応じている。申し送りノートにより日々のケアや研修・業務等の共有化を図り、毎月のミーティングにより、運営に関する案件は合議として運営に反映させている。また、代表による個人面談も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り希望を聞き入れ対応している。ストレスをためないよう働きやすい環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修会に参加し、希望の研修会などあれば申し込みを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ブロック会の研修に参加し、意見交換を行なっている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後にご本人さんによく話を聞き、安心して生活して頂けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お話を聞き、状態報告を行ないながら連絡調整を行なっている。出来る限り要望に対応できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設だけでの対応ではなく状況に応じて話し合いを行ない、個々にあったサービス提供に出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いっしょに、ゆっくりと同じ時間を過ごし話をよく聞きながら、安心して生活して頂けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	連絡調整を行ない、定期的に外出、外泊をして頂いている。定期的に状態報告を行ない、活動写真等郵送している。変化などあればその都度連絡を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅に帰り近所の方と交流したり、入居前に行かれていたデイサービスに見学に行ったりしている	馴染みの美容室の利用、墓参、自宅に定期的に帰り近隣住民と歓談する人、遠方の家族の定期的な訪問、お孫さんと外出する人、昔の職歴をリサーチしSL見学を支援したり、初詣時の姉妹との再会等馴染みの関係性を継続させている。また、彼岸のおはぎや月見団子等慣習の継続や職員が市役所に出かけるときには入居者も一緒にお連れする等社会性にも注視しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が状況を把握し関係作りに努めている。少数での活動や、全体での活動、その時その時に合わせた対応を行なっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡、訪問を行なっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される前の生活を大切に、ご本人様の生活をくずさないように努めている。活動参加など声掛けを行ないその日の状態で参加して頂いている	アセスメントでの把握の他、日々職員は傾聴・寄り添いのケアや会話により、行きたい場所ややりたい事等把握し入居者の思いを実現させている。また、返答の無い人にも、表情や行動等により真意を探り、本人本位になるよう努力している。日々の暮らし方も個々のペースを基本として自由な暮らしを支援しており、「今日はなかなかあー」と歌番組を心待ちとされる方等以前の普段の生活の継続が確認された。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活での会話の中でも情報収集を行ない、変わらない生活が出来るように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを行ない必要な介助の検討を行ない、状態把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回状態報告を行ない見直しをしている。必要に応じてその都度話し合いを行なっている	担当制を取り入れ、日頃の観察や状態を把握し、毎月個別支援計画をチェックし、カンファレンス時に個々の状態を報告し課題や変更があれば全員で検討している。また、介護計画担当者も毎月モニタリングを行い、家族の希望や入居者の思い等をプランに反映させており、見守りの中で安全に生活するためのプランなど具体的且つ詳細なプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代時に申し送りを行なっている。状態はその都度カルテ、申し送りノートに記入し状態観察に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	話し合いを行ない、出来るだけ対応できるよう努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事、イベントなど参加、見学し楽しみを見つけながら生活が送れるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業者の協力病院以外でも入居される前のかかりつけ医への受診を行なっている	入居前からのかかりつけ医を継続し、受診には職員が付き添い家族に連絡や報告している。職員は受診申し送りノートで受診状況や対応を把握し、朝夕のバイタルチェックや観察力で異常の早期発見や早めの受診に繋げている。家族とは些細な事でも連絡を取り、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師は配置していないが、日常生活の中での気づきを大切に少しでも変化があれば、必要に応じ早目の受診を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は定期的に病院に訪問し状態報告を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は行えていない	医療中心になるとホームでの対応は難しいが、本人や家族の希望があれば往診可能な協力医との連携により終末期ケアに取り組む意向であり、看取り研修に参加している。今後も家族や関係者との話し合いに取り組んでいきたいとしている。	ホームに於ける重度化・終末期の支援についての方針の作成が期待され、本人・家族の希望についても話し合いを進めていかれる事が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほぼ全職員消防署の普通救命講習を受講している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行なっている。地域の方を含めた避難訓練は行えていない	年2回消防署立会いで計画書に沿った訓練を昼夜想定で実施している。又、消防設備の機器点検の他にもチェック表による火元確認でまずは火を出さない事を意識付けている。ホーム内は居室も含め全て掃き出し窓であり、非常口にはスロープをつけ避難路を確保している。	運営推進会議で非常災害時には地域からの協力が不可欠である事が説明されており、訓練に近隣の住民に呼びかけ、まずは二時的見守り協力支援等が得られるよう運営推進会議の中で話し合いを持たれることを期待したい。又、近隣住民の緊急時に駆けつける等期待されたホームとして、昼間はホームが近隣に貢献できる事や夜間は近隣住民の応援が必要であること等相互の協力体制の強化に期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方その方の人格を尊重し、失礼のないよう心掛けている	入職時に接遇の研修が行われ、職員は一人ひとりの尊厳に配慮し、敬語での話しかけや呼称にも注意を払っている。居室入室のノックや排泄時のさりげない対応等プライバシーを損ねないように努めている。個人情報保護に基き情報使用の同意や守秘義務の遵守に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の話し掛け等で希望を聞き、出来るだけ希望を取り入れるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いっしょに、ゆっくりと。慌ただしく時間が流れる事はないが、全利用者がどのように過ごしたいかとの希望に添えてるかはわからない		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設の外に出られる時など声掛けを行なっている。また、施設におられる時も同じ服にならないよう心掛けている。女性の方は希望があれば化粧、マニキュアなども行なっている。理美容も声掛け行ない整髪している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや皿洗い、皿拭きなど出来る方には行なって頂いている。盛り付けなども注意している	食事担当職員による提供は、入居者に食べたい物をその都度尋ねメニューに反映させている。食材の買出しと一緒に出かけたり、下ごしらえや後片付け等に取り組み、彩りよく盛り付けられた食事は食思意欲に繋がり、誕生日の特別メニューや行事食を楽しみ、嚥下状態に合わせとろみや刻み食を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表作成し評価している。水分量が少ない方には声掛け、補助として水分ゼリーなど提供して体調管理に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアの声掛けを行なっている。介助の必要な方は職員で毎食後介助を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方にあったりハビリパンツ、パットを使用している。時間毎に声掛け、誘導を行ない失禁の軽減に努めている	排泄チェックでパターンを把握し、転倒予防の為の見守りや、尿意のない方へは時間的誘導によりトイレでの排泄を支援している。職員はドアの外で待ち、失敗時はさりげなく対応したり、夜間時の統一したケアに繋げる為申し送りを徹底している。また、入居者一人ひとりに合わせた排泄用品の検討や昼夜での使い分けで気持ちの良い排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難のある利用者様には個々に合わせた声掛け、内服管理、排便状態の観察を行なっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間での入浴は行なえていない。日中には声掛けを行ない利用者様の良い時に入っている。足浴も行なっている	入浴は希望の時間帯に一日置きを目途に声をかけ支援し、寒い時には昼間の入浴としている。入浴剤やゆず・しょうぶ湯等を取り入れたり母の日にはカーネーション風呂を取り入れ、汚染時には随時下半身浴や足浴等清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に応じて臥床して頂いている。昼間の臥床が長くないよう声掛けを行い、夜間よく休めるように心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の一覧表を作成し、副作用の確認を行なっている。誤薬が無いよう服薬管理に気を付けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所だけの生活にならないよう、野外活動を充実させ趣味活動や散歩、ドライブなど気分転換を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候をみながら野外活動を行なっている。季節ごとの行事、お祭りなどに出掛けるようにしている。遠方に出掛ける場合はご家族に連絡を行ない出掛けるようにしている	日常的なホーム周辺の散歩や、庭での外気浴、プランターに花の苗を植えたりと戸外で過ごすことを支援している。又、季節毎の花見(桜・ツツジ・バラ・あじさい・コスモス等)や紅葉見学に積極的に出かけ、お城祭りや観音様巡り、イルミネーション見物等夜間の外出の機会も支援している。家族との外出や外泊、職員との自宅訪問等自宅での生活の延長であると捉え支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が持っておられる。受診や生活用品は預かり金で賄っているが、ショッピングなどに行かれた際はご自身でお支払いしていただけるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の少ない方で、電話出来る方には電話してお話して頂いている。年賀状は全利用者様書いて頂きご家族や、親しい方に出して頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせたカレンダー作りをして頂き毎月掲示している。飾り付けもその時折にあわせ行なっている。	入居者が集う開放的なリビングには対面式の台所や畳の間が続き、ダイニングテーブル席には家族の写真や手紙をテーブルの間に挟んでおられる方にも配慮しながら、時にはレイアウトを変更したりしている。住宅地の静かな環境にあり騒音もなく、時節に応じた作品の展示や温湿度管理を徹底した快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや和室でゆっくり過ごして頂けるようにしている。日当たりも良くソファーでお話などされ過ごして頂くようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご自宅で使用しておられた物等を持って来て頂くよう声掛けを行なっている。持って来られる方もいらっしゃいますが持って来られない方もいらっしゃる。使用しやすいように配置している	入居時に必要なものを書面で家族に依頼している。居室はクローゼットやベッドが備えられ、タンスやテレビ・思い出の品物等を持ち込み自分の部屋として整え、居室に洗濯物を干したり、夫婦で二部屋を居間と寝室として使用される等自宅とのギャップを感じさせない居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっているが居室から外に出る場合は段差がある。生活の一部としてあえて段差を残しました。入居前にご家族にはご説明を行ない了承を得ております		